

海浜自然センター(1/2)

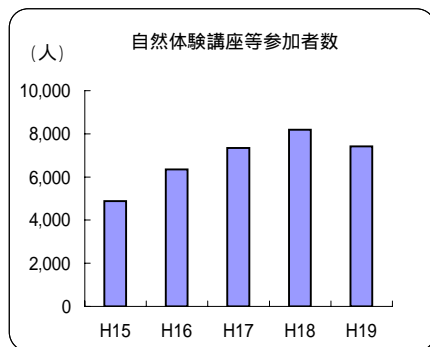
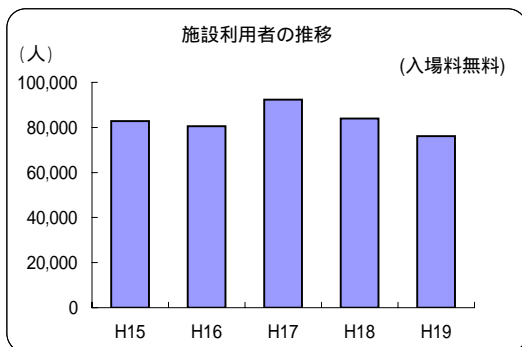
～海の素敵発見館～

福井県海浜自然センター

所在地	三方上中郡若狭町世久見18-2(食見海岸)		
設置年月日	平成11年7月20日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	人と自然が共生したやすらぎある県民生活の実現に向け、より一層自然への理解を深めていただくために、本県の豊かな海を知り、体験していただくための施設です。学習、体験、情報収集と提供などの機能を備えており、県民の皆様の自然保護意識の高揚を目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	・鉄筋コンクリート造、地上2階 延2,122㎡ ・エントランスホール・体験学習室・スノーケル体験施設・展示室・マリンホール(3Dシアター)・海のライブラリー(授乳室あり)・展望デッキ		
職員数	職員5人 非常勤嘱託1人 アルバイト1人 計7人		

利用状況 自然体験講座等参加者数は入館者数の内数

	H15	H16	H17	H18	H19
入館者数(人)	82,831	80,494	92,393	83,997	76,138
自然体験講座等参加者数(人)	4,882	6,349	7,338	8,195	7,413



利用状況の推移	平成19年度は、約7万6千人の利用がありました。2年連続の減少となりましたが、これは、経済情勢や天候等の影響によるものと考えられ、周辺地域の観光客も減少しており地域全体の問題となっています。このような中で、中京方面からの小・中・高等学校の自然体験研修は、地元観光協会との連携もあり、すっかり定着しました。
	自然体験講座等は開催当日の天候により中止やキャンセルがあるため参加者数が減少しましたが、申込みは安定しています。また県内外の小中学校等からの講座依頼が大きく増えるなど、開館から9年が経過し、センターの存在が浸透してきたものと考えています。

施設の特徴

本県唯一の海中公園(三方海中公園)や若狭湾国定公園の特徴であるリアス式海岸特有の美しさ、磯辺の生物を観察できる近畿自然歩道を周辺に有し、スノーケリングを始めとする自然体験や、施設内では若狭の海の歴史や魚の展示、魚にえさを与えたり、直接触れられる体験など本県の豊かな海を実体験できる施設として大変好評です。



各種事業の開催

自然保護思想の普及・啓発のため自然教室や観察会を開催しています。

- ・スノーケリング
- ・磯観察
- ・海藻おしば
- ・野鳥観察
- ・お魚観察会



展示事業

海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供しています。

- ・ふれあい水槽
- ・リアルタイムスコープ
- ・若狭のくらし
- ・マリンホール



研修養成事業

海の自然観察の指導者となる人材の育成のため、スノーケル指導者養成講座等を開催しています

調査研究事業

周辺の自然環境調査を実施し観察会等に活用しています。

資料収集事業

海に関する標本や文献等、展示学習資料の収集を行っています。

海浜自然センターのホームページ URL <http://www.fcnc.jp/>

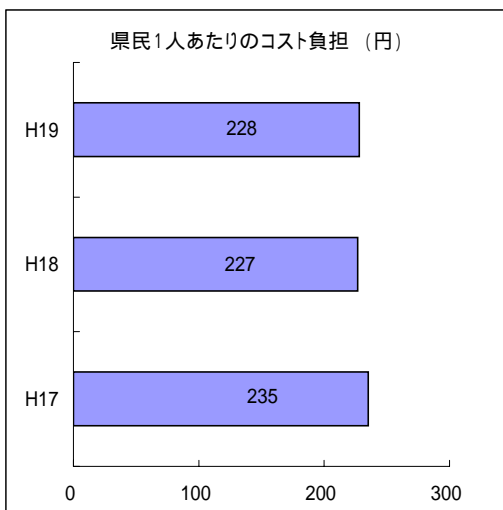
平成19年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間をかけて調査した三方五湖とその流入河川に生息する魚類や、三方五湖の現状と問題点、これらへの対応策などを紹介する特別展示を行っています。 ・三方五湖の自然環境の保全・活用のための、田んぼを活用した魚類の繁殖(水田魚道)や水鳥の餌場確保(ふゆ水たんぼ)のモデル事業の波及効果により、地元の小学校や農業者団体の自主的取組が始まるなど、自然環境の保全・活用に向けた裾野が広がっています。 ・子供連れの来館者の方々に海への親しみを持っていただくため、昨年度から水槽の魚を観察しながら塗り絵を楽しんでいた「塗り絵コーナー」を設けており、非常に好評を得ています。
------	--

海浜自然センター(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	54,551	29.3%	104.5%
	退職給与引当金繰入	60	0.0%	-18.5%
	計	54,491	29.3%	103.8%
物にかかるコスト	物件費	38,532	20.7%	101.7%
	維持補修費	2,386	1.3%	140.9%
	減価償却費	67,761	36.3%	100.0%
	計	108,679	58.3%	101.3%
その他	公債費(利子)	21,363	11.5%	91.9%
	その他	1,719	0.9%	61.9%
	計	23,082	12.4%	88.7%
合計		186,252	100.0%	100.2%
収入	利用料等収入	5	0.0%	100.0%
	その他収入	333	0.2%	94.6%
	一般財源	185,914	99.8%	100.2%

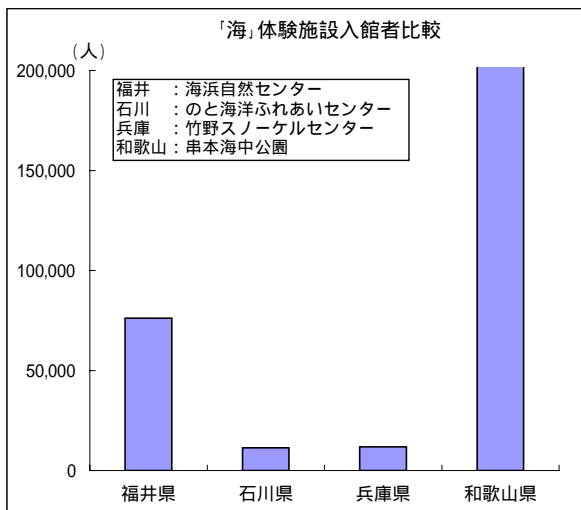


バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,152,481	94.4%	固定負債	864,792	91.0%
うち建物・設備	1,150,383	94.4%	うち起債残高	825,077	90.6%
			うち退職手当引当金	39,715	99.8%
投資等	0	-	流動負債	85,848	99.7%
流動資産	0	-	正味資産	201,841	110.0%
計	1,152,481	94.4%	計	1,152,481	94.4%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,413	1,491	94.8%
県民1人あたり将来負担額	1,061	1,162	91.3%
世代間負担率	17.5	15.0	116.5%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>平成19年度の行政コスト、県民1人あたりのコストとも前年度と同水準になっています。施設の建設が平成11年度と新しいことから、減価償却費や公債費の割合が高いのが特徴です。</p> <p>物件費については、全体としては前年度と同水準ですが、このうち備品購入費が、特別展「三方五湖のさかなたち」の展示用水槽購入等のため増額となっています。維持修繕費のうち修繕費は庁舎関連のもので、これは、海岸に隣接し潮風にさらされているために年数の割りには塩害で施設が傷みやすく、また建物内部も水槽維持のために海水を扱っており、湿気が多いために設備の修繕が増えています。19年度には、自動扉を修繕したため大きな増額となりました。</p> <p>建設にあたって約14億円の起債借入を行っており、年間の償還額は行政コスト計算書の約半分にあたる86百万円に上ります。この結果、県民1人あたり将来負担額が高水準にあり、世代間負担率も低水準(後世代への負担が大きい)になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験講座、研修養成事業【H20予算額:約3百万円】(自然保護思想の啓発のための講座・観察会を開催、自然観察指導者を育成) ・展示事業(海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供) ・調査研究、資料収集【H20予算額:約1百万円】(自然環境調査、標本・映像等の収集・保存) ・外来魚防除対策事業【H20予算額:約1百万円】(農業用ため池等における生態系保全のためのモデル防除・資機材貸出)
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者のうち夏の海水浴に伴う観光客は全国的にも伸び悩んでおり、季節に関係なく来て頂けるリピーター(特に地元の方)へのアプローチが必要です。 ・自然環境保護、生物多様性保全が世界的な課題となり、また三方五湖を中心とする「里地、里海」の保全活用が課題となる中、当該業務の一端を担う当センターの役割は大きく、正確な情報を提供できるよう、職員の資質の更なる向上や地域住民や関係団体との密接な連携が必要です。
今後の事業方針取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・海の自然保護教育の拠点として、親しみの持てるイベントの開催、魚類等の展示物や掲示物の充実など活気ある施設運営に努めていきます。 ・また、講座、観察会の新規参加者を増やすため、近隣小中学校等での出張講座の開催や、地元観光協会、近隣施設、エコツーリズム推進団体等との連携強化に取り組めます。 ・これまで以上に、大学等の専門機関との連携を強化していきます。